

へいせい ねん がつ にち
平成31年3月16日

ひがしおおさかしじりつしえんきょうぎかいけんりょうごぶかい
東大阪市自立支援協議会権利擁護部会

かつどうほうこく
活動報告

くるまざわーくしょっぷ 『ちよっと聞いて！ 私の「障害」(こまりごと)』

しゅさい ひがしおおさかしじりつしえんきょうぎかいけんりょうごぶかい
主催：東大阪市自立支援協議会権利擁護部会

ひがしおおさかしふくしぶしょうがいしやしえんしつ
東大阪市福祉部障害者支援室

きょうさい ひがしおおさかしじりつしえんきょうぎかいとうじしやちゆうしん かい
共催：東大阪市自立支援協議会当事者中心の会

しんこう さこ ひさよ おおさかて いくせいかい
進行：佐古 久代さん(大阪手をつなぐ育成会)

ちむら たかし とくていひえいりかつどうほうじん
地村 貴士さん(特定非営利活動法人ぱあとなあ)

へいせい ねんど がつ せこう しょうがいしやさべつかいしょうほう かんが
平成28年度4月に施行された障害者差別解消法をみんなで考えよう。

とうじしや しみん じぎょうしやとう たいしやう かいさい
当事者、市民、事業者等を対象に開催。

ぶろぐらむ
♪プログラム

- ① どうにゆう ごうりてきはいいよ せつめい
導入 合理的配慮の説明→「しょうがい」ってなんだろう？
- ② どうじしや はっぴよう
当事者の発表
- ③ ぐるーぷわーく
グループワーク
- ④ まとめ

とうじしゃ はっぴょう か こ5かいぶん ばっすい
☆当事者の発表より(過去5回分より抜粋)

ちてきしょうがいしゃ はは
【知的障害者の母】

つくい えん さつじん こ しょうがっこう あ ほか かあ
「津久井やまゆり園での殺人でわが子が小学校に上がるとき、他のお母さんたち

「『あなたのお子さんの来るところではない。他に行く学校があるでしょう。私た

ちの子どもに迷惑です』と言われたことを急に思い出、夜中、コトつと音がしただ

けでも怖くなった」

しんたいしょうがいしゃ
【身体障害者】

さんぱつや い へるぱー いっしょ りゆう にゆうてん ことわ
「散髪屋さんに行ったが、ヘルパーさんと一緒にないという理由で入店を断られ

た。バスや電車の乗り降りで、職員さんが手伝ってくれる際に嫌な顔をされること

がある。『変な歩き方』と近所の小学生にからかわれることがあって、小学校に

相談してみたら、学校に招待されて子どもたちに話す機会をもらい、それ以降か

らかわれなくなった。」

ちてきしょうがいしゃ
【知的障害者】

しりょう よ むずか かんじ ふりがな よ きつぷ か
「資料を読むとき、難しい漢字ばかりでフリガナがなかったら読めない。切符の買

い方やおつりの計算を手伝ってほしい。時間がかかっても他の人と同じようにで

きることもある。」

【身体障害者】

「健全者にどう理解してもらおうかが大切。ゆっくりしたペースでいつか理解してもらいやすいように持って行く。あきらめずに時間をかけて」

【知的障害者】

「電車の運賃表が見にくい。乗り換え案内も忙しそうな駅員さんには尋ねにくい。次の行動を見通すことが苦手でイライラするときもある。そんな時は静かな場所で落ち着ける環境があれば大丈夫なんです。」

【発達障害者】

「障害のせいで不器用で、周りについていくことができず、何かに参加しようと思っても、周りが無理だと決めつけたり、代わりにやってくれたりした。自分の価値観や評価が人を傷つけることをしてほしい。排除ではなく、配慮を、一人の人間としてかかわってほしい。」

【精神障害者】

「いつも不安な気持ちを持っていることを理解してもらいたい。公共の場で大声を出したり、発作的な行動をとることもあるが、それはSOSのサインとわかってほしい。」

【難病】

「難病に対する誤解から、差別的なことを言われることもある。見た目で見えにくいこともあり、知ろうとする感性を持ってもらいたい」

【発達障害者】

「差別は知らないことが原因、配慮も正しく知ることが大切。無関心、知っているつもりではなく、反対に「わかってくれない人」「また傷つけられる人」と思い偏見も持つことがあるが、お互いが歩みよることが大切」

【脊髄筋委縮症】

「介助犬への理解はまだ少なく、入店を断られることもある。見ず知らずのお客さんが店主に声をかけてくれて、入店できたときはうれしかった。」

☆グループワークより(過去5回分より抜粋))

・障害者自身の自助努力も大切。「車いすだから、使いにくい」という前に、施設

の情報を調べて、自己決定する。安全管理上の理由でサービス提供を断ら

れる事例については妥協案を考えよう。

・合理的配慮がかえって本人のスキルアップの妨げになることもある。障害者

同志でも、自分と異なる障害者のことを十分理解できていない。困っていることを、きちんと伝えないとわかってもらえない。

・向き合うこと、対話が大切。「焦ったり、強制はダメ。いろんな考え方があ

ら、お互いを知って、暖かい気持ちで共生社会を作っていけないといけない。

・中途障害者となりました。働くことの大切さがわかります。再就職して、目の

前が明るくなりました。障害者になって、自分の世界は広がりました。

【まとめ】

こまりごとはみんな違う。他の障害の困りごとでも知ることができて良かった。こんな

ことをしてもらってうれしかった、という話ももっと聞きたい。ほっこりできた。また、

開催してほしい。

ワークショップというこの様な機会は、障害者にとっても、他の障害者のこまりご

とを知る良い機会となった。このような機会が増え、理解がさらに深まっていくことが

大切である。

今後は、当事者、住民、事業者等にもっと参加してもらいやすくするために、開催

時間の変更なども考えていきたい。